

◆【海員組合・担当支部へようこそ】 沖縄支部の紹介

沖縄支部は、沖縄の玄関口「那覇港・那覇新港」の近く那覇市若狭にあります。支部からは沖縄の観光名所として有名な「国際通り」や繁華街の「松山」が近く、交通手段も便利です。支部の外観は、一目でわかる赤レンガ造りです。

沖縄支部が担当する会社は沖縄本島のほか、石垣島や宮古島などの離島にもあり、活動範囲が広いことが特徴です。支部体制は、漢那太作九州関門地方支部長兼沖縄支部長を筆頭に執行部1人と事務職員2人で、精力的に活動を展開しています。沖縄県特有の組合員さんとのコミュニケーション(うちなーぐち)を非常に大事しております。

－沖縄の物流の拠点＝那覇港－

沖縄県は、東西約1000km、南北約400kmに及ぶ広大な海域に160の島々が点在する島しょ県で、鉄道がない唯一の県です。

戦後、本土では戦禍を被った鉄道の復旧が進められましたが、米軍統治下の沖縄において沖縄戦により壊滅した県営鉄道の復旧は行なわれませんでした。その代わりに米軍は、重要な拠点施設である港の復興に力を注ぎました。

沖縄の主要港である那覇港は、今から約500年前、初めて三山(沖縄本島)を統一した尚巴志王(しょうはしおう)が、中国との交易船の出発地点として開いたのが始まりといわれ、当時は浮島とよばれる小さな島々がある静かな入り江でした。その後、琉球王朝の表玄関として中国をはじめとする東南アジア、朝鮮、日本との貿易を進め、東アジアの一大貿易港となっていきました。中国、朝鮮半島、東南アジアの国々と日本との貿易の中間地点として、沖縄は様々な国の品物や人、文化が集まる国際都市として繁栄しました。

1853年に日本開国の目的でペリーが立ち寄り、首里城を訪問し、琉米和親条約を結び、1879年の琉球から沖縄県へ変わった頃から那覇港にも蒸気船が就航するようになりました。大正時代になると、145mの岸壁が完成し、3000トン級の船も入港できるようになり、沖縄県全体も順調に発展を続けていましたが、太平洋戦争で、地上戦が繰り広げられ港も壊滅的な打撃を受けました。終戦後、港の復旧は先行的に行われ、現在も新たな港湾計画の中では、拡張と周辺整備が進められています。

－大衆討議期間中の意見集約－

現在、沖縄支部では今次海員春闘に向けて、現場組合員の負託に応え要求を作成するための意見集約＝大衆討議を行っており、担当する現場組合員の会社が、沖縄本島～石垣島・宮古島と活動範囲が広く、またコロナ禍という厳しい状況下で、万全な対策のもと、コミュニケーション不足とならないように連絡体制を強化しています。沖縄へお越しの際は気軽にお立ち寄りください。

「海員だより」